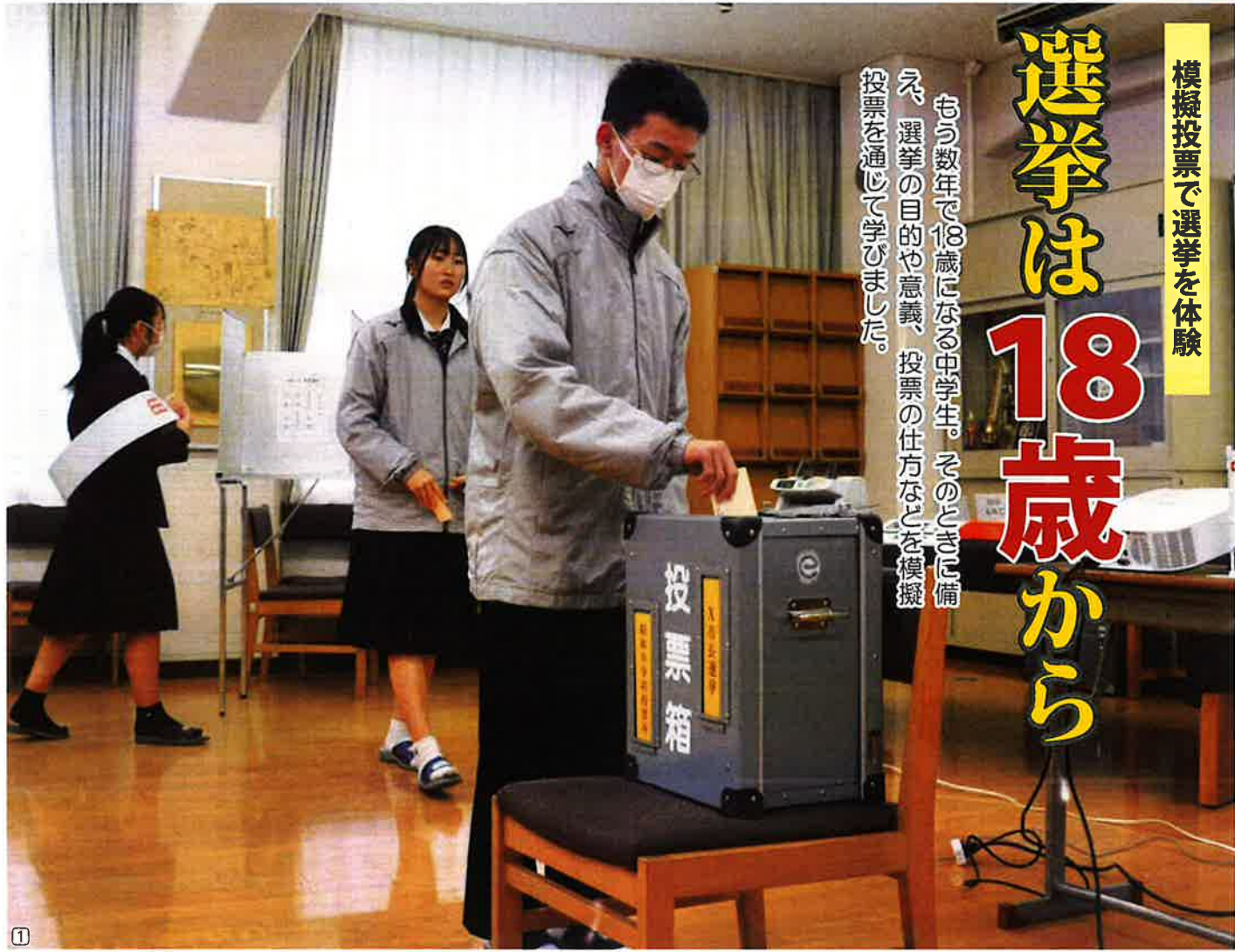


選挙は18歳から

もつ数年で18歳になる中学生。そのときを備え、選挙の目的や意義、投票の仕方などを模擬投票を通じて学びました。



1



2

模擬投票は、3人の立候補があったとした仮想のX市長選挙で生徒は選挙を体験した。争点は公共用地の利活用の方策。候補者役の生徒は「ごみ処理施設の整備」「総合公園の整備」「高齢者向けの施設の整備」と、それぞれの政策を訴えた。生徒は、演説を聞いて投票を行った。



模擬投票
X市長選挙
立候補者

- ①模擬投票で候補者名を書いた投票用紙を投票箱に入れる
- ②講師の市選挙管理委員会事務局職員の話や大切さを学んだ
- ③投票用紙自動交付機を使って投票用紙が渡された
- ④投票前に投票箱に何も入っていない確認をする生徒
- ⑤投票終了後、手作業で開票作業の体験をする生徒

昭 和中学校で12月5日、選挙の意義や大切さを学ぼうと、選挙の出前講座が開かれました。

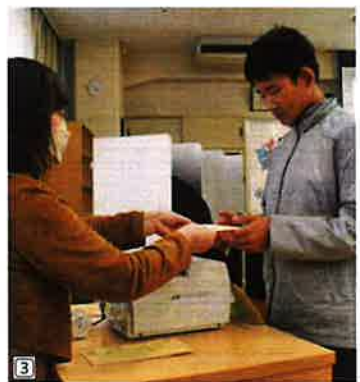
選挙で選んだ代表者は、市長、市議会議員、県知事、県議会議員、参議院議員、衆議院議員の6種。18歳の誕生日を迎えると、選挙で投票をするのができます。

受講した3年生は、市選挙管理委員会事務局職員からの選挙の話聞いた後、模擬投票を体験。仮想のX市長選挙を題材として、3人の候補者の主張を聞き、だれに1票を投じるかをよく考えて投票することを学びました。

昨今の選挙で、若年層の投票率は決して高いとはいえない状況です。講座のなかで市選挙管理委員会の委員長は、「選挙は政治に参加する最も身近な機会。選挙があれば必ず投票しよう。みんなの1票が未来をつくるのだから」と話しました。



4



3



5